

日にあらたに



札幌市立日章中学校
学校便り 第481号
令和7年3月21日発行
TEL831-6196 FAX831-2754
<https://www.nissho-j.sapporo-c.ed.jp>

卒業証書授与式 学校長式辞

開校以来、64年という月日を経て、弥生三月、本校にも、旅立ちと、別れの時が巡って参りました。常に温かな眼差しで、子ども達を見守っていただいた、地域の方々、そして保護者の方に支えられ今を迎えようとしています。親愛なる、卒業生諸君が、思い出を胸に刻み、新しい環境へと、歩みを進める門出となるのが、本日の卒業証書授与式であります。ご来賓の皆様と、卒業生保護者の皆様をお迎えして、本日、卒業生156名の門出をお祝いできますことは、日頃よりの皆様のご支援の賜物とまずもって教職員一同、心より感謝申し上げます。

先ほど卒業生一人一人に証書を授与いたしました。照れや緊張、初々しい若者の瞳の奥には希望に満ちた光があり、私の目の前では、どの子もそれぞれの輝きを放っておりました。この3年間を振り返りますと、この子達はご家庭の愛情に包まれながら、授業は勿論のこと、生徒会活動、委員会活動、部活動など、それぞれの担当教師の厳しくも温かい指導のもと、様々な失敗や挫折を繰り返しながらも、誠実にそして、ひたむきに学校生活を送っておりました。あなた方は、保護者の皆様に今まで15年間大切に育てていただきました。幼い頃、抱っこや手をつないでくれた温もり。名前を呼んでくれた親の声。病気の時に看病してくれたこと。辛いときに味方になって一緒に考えてくれたこと。帰りが遅くても待ってくれたこと。作ってくれた好物の味。一生懸命に働いてくれたこと。親を思う気持ちを忘れることなく、一日一日を大切に生きてください。今できるあなた方の親孝行は「親に迷惑をかけないこと。そして心配させないこと」です。健康で元気に過ごしていること自体が親孝行かと思えます。保護者の皆様、このように育った我が子を見て、考えもひとしおかと思えます。初めてうぶ声を上げた誕生から、初めて寝返りをうった喜び、初めて「パパ、ママ」と発した言葉の感動、初めてつかまり立ちから一歩を踏み出した驚き、そして小学校入学、中学校入学と日々の成長に喜びを感じていたことでしょう。

さて、卒業生諸君、現実の未来は決して楽観できるものではありません。少子高齢化における社会保障制度の大幅な見直しや、平和が脅かされる不安定な東アジア情勢そしてロシア・ウクライナ問題、仕事の数と種類が大きく変化するであろう人工知能・AIの普及、そしてコロナの問題など、大きな壁が立ちはだかっています。君たちは知恵と勇気と互いの協力でその壁を乗り越えなければなりません。チームで課題解決するトレーニングを生かし、ひとり一人重要な役割を担い、総力戦で立ち向かってくれることを信じております。そして必ず努力を続けていれば、そこに小さな幸せや楽しさが待っていることを忘れないでください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませぬ。保護者の皆様、そしてお孫さんの晴れの姿を見られたおじちゃん、おばあちゃんも参列でき、式場でのお子様の立派な姿をご覧になり、お喜びもひとしおのことと推察いたします。さて、子は思うように育たないと申しませぬ。子の悩みや苦しみを解決する術は理屈ではわかっていても、子の痛みは自分の痛みでもあり、直ちに解決に至らなかったこともあったことでしょう。これもまた、子をもつ親の実際的心情であります。そんな保護者の皆様の心情にどれだけ寄り添えたのであろうか。反省と改善を繰り返しながら、大切にしてきた本校の教育の視点でもあります。この子達が独り立ちするようになるまでには、まだまだ時間がかかります。いくつになっても子は子と申しませぬ。時を隔て、我が子が立派な家庭を築く姿をご覧になった時が、子育ての人区切りかと考えませぬ。三年間のご支援ご協力、誠にありがとうございました。

結びになりますが、ご来賓の皆様、ご多忙の中、本日のご臨席、誠にありがとうございました。本校はこれからも中学生の育成に全力で挑み、信頼と感動をお届けできる存在で有り続けることをお誓いいたします。また、大変恐縮でございますが、今後とも変わらぬご愛顧とご支援を頂戴できませぬようお願い申し上げます。式辞の言葉とさせていただきます。

在校生より お祝いの言葉

在校生代表生徒

雪も溶け始め、日差しの中に春の気配が感じられる季節になりました。今日この佳き日、日章中学校を旅立たれる3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。この「卒業証書授与式」に臨むにあたり、皆さんの胸の中にはこの日章を発つ嬉しさや寂しさが入り混じり3年間の学校生活の思い出が昨日のこのように 思い起こされていることでしょう。

私たち在校生も先輩方との日々を鮮明に思い出します。特に印象深く思い出すのは、行事での姿です。陸上競技会では、先輩たちの見せてくれた一つ一つの競技への熱量・全力さは私たち 1・2年生のやる気にも火を付けてくれました。先輩たちが、真夏の日差しの下で全力で走り抜ける姿などを見ながら、もちろん私達1・2年生も仲間を必死に応援しました。しかし、日差しと熱に包まれた中での挑戦でもあった3年生の応援席から聞こえてくる熱気溢れた選手への励ましや応援は人一倍に大きく、各競技に参加している選手の大きなエネルギーとなっていました。先輩たちは暑さを乗り越え、私たちに全力で取り組むことの大切さ・仲間と団結することで生まれる力・最後の最後まで勝負を諦めない執念を教えてくださいました。学校祭では、活動の時間や環境が制限されることが多い中であっても、目標を高く掲げ、一切妥協せず本番で全力を発揮できるよう練習に取り組む姿がありました。また、卓越した行動力で、まだ不慣れだった私たちを導いてくださいました。そして当日はどの部門でも三年生らしい表現力のある発表で、今年度のテーマであるパレットのように私達在校生・先生方・保護者を笑顔にして、学校全体を彩ってくれました。私自身、時には自分が後輩として、先輩としてどう見られているのか気になり、思い悩んだことがありました。部活動がうまくいかない時、勉強での挫折、人間関係のすれ違い。一人で涙した日もありました。行動力があり順風満帆な学校生活を送っていらっしやるように見えた先輩方。そんな先輩方でも、私たちが今抱えている悩みを一度は経験してきたはずです。しかし、勉強面では、部室が開くまでの待機時間や大会で平然と英単語帳を眺める目標に向かって努力する先輩方の姿がありました。受験生ではない私達には驚きがあったと同時に進路希望を実現する厳しさと夢に向かって頑張るという強い意志を感じました。私達も先輩方を見習って勉強でうまくいかないことがあっても、上を向いて頑張ろう、絶対夢を叶えてやろうという気持ちになれました。また、時間ギリギリまで部活動の練習に励む先輩方も見てきました。どんなに困難な時でも逃げずに一生懸命に自分の課題を見つけて、向上しようとする姿は本当にかっこよかったです。私たちは先輩方が残してくださった伝統や目に見えない心、「気遣いや優しさ」の部分もしっかり受け継いでいこうと思います。

これからは、これまで過ごしてきた環境と大きく異なり、戸惑うことや悩むこともきっとあると思います。誰かに届けたい言葉があること。誰かに伝えたい思いがあること。誰かに見せたい笑顔があること。迷わず行動して、自信と誇りを持って前に進んで行って欲しいです。先輩方が自分自身の夢や希望を絶やすことなく、次のステップへと羽ばたいていけるように在校生一同、応援しています。気づけばいつも3年生に支えられここまで歩いてきました、だから 今度は自分が・私達が、誰かを支えられるように日章での学校生活を送っていきます。先輩方の新しい道が明るい光で照らされますよう、在校生一同願っています。いよいよお別れの時がまいりました。

最後になりましたが、先輩方のご健康と益々のご活躍を心からお祈りし、そしてありがとう、さようならを付け加えて、送辞の言葉とさせていただきます。

卒業生より 慶びの言葉

卒業生代表生徒

厳しい寒さが和らぎ、暖かな日差しがそそぐこの頃、春の訪れを感じます。本日、私たち卒業生は日章中学校を旅立ちます。今日が最後の登校日だと思えば、少し寂しいです。

私は、中学校三年間で今年が一番充実していたように思います。それは、自分から行動することが増えたからに他なりません。学校祭や合唱コンクールでは、全員が本気で成功させようと思っていたぶん、多くの衝突が生まれました。クラスの仲間と意見をぶつけ合う中で、私たちの気持ちは一つになりました。全員が本気で取り組んだからこそ、記憶に残る行事となりました。また、今年は今までで一番努力した一年になりました。受験という一つの目標に向かって努力することはとても大変で、苦しくて、途中で投げ出したいことが何度もありました。それでもがんばれたのは、同じように歯を食いしばって努力する仲間がいたからです。私たちはたくさんの試練を乗り越えて今日、この日を迎えました。そんな私たちは強いです。ちょっとやさしくだけでは負けません。この先どんな困難に出会っても、「あのときあれだけ頑張れたから大丈夫」と思い出して、諦めないで頑張ります。

日章中学校では、いじめについて自分たちで考える活動を行ってきました。互いを尊重し、対話を積み上げて、多様性を認め合える学校という全校スローガンのもと、生活する中で私は、たくさんの優しさに出会いました。つらいときや心細いとき、仲間からもらった優しさに何度も救われました。そのことで、私も他の人に優しくしようと強く思うことができました。優しさは人と人とを繋げます。優しさは連鎖し、次第に大きな力を生みます。しかしそれは、少し勇気が必要かもしれません。それでも、勇気を出して行動したその先には、一生の宝物になるかもしれない絆・思い出があるのだと、私は信じています。

これから私たちが歩いていく予測困難な時代では、一人一人が未来の創り手となることが求められます。異なる力をもつ人が集まり、新しい捉え方、切り口、活用方法を発見することで、新たな価値を生み出していかなければなりません。日章中学校で身につけたコミュニケーション力を生かし、対話を通じて、互いを尊重し合える未来を創っていきます。

最後に、これまで私たちの中学校生活をあたたかく見守ってくださった地域の皆様、いつも私たち一人一人と真摯に向き合ってくださいました先生方、そしてどんなときも一番そばで私達のことを思い、支えてくれた家族に、心からの感謝を伝えたいです。ありがとうございました。私たちの大好きな日章中学校が、ますます素敵な学校になることをお祈りして、慶びの言葉とさせていただきます。